

# 白馬大池—白馬岳山行報告

【山城】北アルプス・白馬岳

【日程と天気】2015年7月11～12日 晴れ

【メンバー】菊池単独

【行程】

11日 千城台北 5:36 モノレール—都賀—東京—新幹線—長野(東口)9:10—バス—10:40 榑池—ゴンドラ・ロープウェイ—榑池自然園登山口—15:40 白馬大池(テント泊)

12日 白馬大池 6:00—8:28 小蓮華岳—10:52 白馬岳—白馬大雪渓—15:15 猿倉—タクシー相乗り—八方バスセンター—15:55—バス—長野—新幹線—東京—21:30 自宅

【目的】

1. 高山植物の宝庫・白馬岳には7月初旬には訪れたことはなく、この時期の花を巡る北アルプス(白馬岳)の山行を是非実現させること。
2. 昨年は白馬岳から白馬大池の縦走で、白馬三山の撮影を行ったが、今回は逆ルートでじっくり写真撮影をしたい。
3. 高齢化に伴い、テント泊縦走が厳しくなっていると考えるが、今年だけはなんとか夏のアルプスをテント泊縦走したかった。
4. 小生の心のふるさと「白馬岳」に行ける限り行ってみたい。



・以上のような目的の下、3週間ほどでカロリー制限による減量（3～4kg）に成功、週に3～4回の8kmほどのランニング、週末には山行で体力保持増進、体調を整えて臨んだ。  
・単独行のため、マイカー利用は時間的にも体力的にもハードと考え、新幹線利用とした。長野から白馬・梅池方面にはバスがあり、費用もマイカー利用とほぼ同じ2万円ほど、朝一のモノレールに乗り、午後3時半には白馬大池のテント場に到着という、体力的には楽な山行であった。今後は大人の休日倶楽部に会員登録し、積極的に電車利用による山行を実施したいと考えている。

・次週の連休には激混みの北アルプス、梅雨開け前の好天をゲットでき、静かな山行が実現できた。今期は各地で雪消えが早く、山スキーの板納めを5月末とし、6月入ってからは七ツ小屋山・大源太山、北岳、車山の花山行を実施できた。7月に入り、梅雨本番の雨模様続きであったが、絶好の登山日和に恵まれた。

・重荷のため、アルコールはウイスキーのみ持参するつもりであったが、梅池のゴンドラ乗り場でスパードライ 500mlを購入、しめて15kgほどの重荷を担ぐこととなった。天狗原の上部、乗鞍の急斜面は残雪たっぷりで標高差200mほどアイゼン登高したが、山スキーがまだできるのでは、と不純な考えが頭をよぎった。白馬大池は湖面の雪消えが最終段階となっており、コバルトブルーの湖面に崩壊している雪ブロック



の芸術が素晴らしかった。ナナカマドの花は咲き始めていたが、昨年8月初めの小屋周辺のチングルマの群落は、まだ多くの残雪に覆われていた。

・白馬周辺は稜線の雪消えは早かったが、積雪は多い年とのことで、白馬大池、白馬大雪渓にはたっぷりの残雪があり、木々の緑、紺碧の空とのコントラスト、稜線に咲き誇る多くの高山植物とのコラボを堪能できた。

・白馬大池のテント場は20張弱、小屋には団体さんグループの宿泊もあったが、静かなテント泊を楽しめた。雪が消えたばかりのテント場の脇には、ハクサンコザクラ



が咲き始め、残雪の船越の頭方面の山をバックに夕暮れ時には素晴らしい紫色が映えていた。

・テント設営後、ハクサンコザクラなどを写真撮影、4時半ころから、ハクサンコザクラの咲くテント脇で1人宴会・夕食開始、残雪で冷やしたビール・ウイスキー水割り3杯、約2時間、ゆっくり贅沢な時間を過ごし、日没まではまた夕暮れ時の撮影タイムを楽しんだ。真夜中にトイレに起きた時には半端でない満天の星と天の川をぼっとした頭とまなこで眺めたことは覚えている。



・2日目の朝は水たまりに氷が張るほどに冷え込んだ。6時出発、休養十分、体調良好、ゆっくり山スキーでいつものエントリーポイント、船越の頭に向かった。残雪と緑のコントラストが素晴らしい雪倉・朝日を右手、船越の頭からは白馬三山など後立山連峰の雄姿が素晴らしい。昨夏は雲海が素晴らしかったが、今年は雲海も全くでない好天、視界良好で素晴らしいショットの連続である。チングルマの時期にはまだ早い、ハクサンイチゲ・シナノキンバイ・ミヤマアズマギク・チシマギキョウ・オヤマノエンドウ・タカネシオガマ・ミヤマクワガタなどなど百花繚乱の花々を楽しみながら小蓮華岳に到達した。



・小蓮華山周辺から白馬岳への稜線から白馬三山・後立山連峰の眺めは素晴らしい、昨夏はチングルマ・ヨツバシオガマを前面に撮影したが、今年はハクサンイチゲの群落を前面に素晴らしいショットが撮れた。



船窪小屋付近で初めてお目にかかったムシトリスミレも登山道脇に目をやると発見できた。

三国境を過ぎると、本州では八ヶ岳と白馬岳にしかないウルップソウが多くなってきた。さらに、これまた八ヶ岳と白馬で梅雨時にしか見られないツクモグサ(すでに咲き終わっているものがほとんどであった)にもお会いでき、大感動であった。

山頂近くの登山道の右は見事なお花畑、残雪たっぷりの旭岳と剣・立山連峰をバックに今

までに見たこともないほどの豪華絢爛の素晴らしい景色である。この時期に来てよかった！！と思えた瞬間である。



・白馬山頂で記念撮影、村営小屋まで下り休憩後、可憐な青色のオダマキの咲く登山道を雪渓に向かい下った。この時期はかなり上部から雪渓をアイゼンで下り、いつもの急斜面の雪渓をトラバース、その後アイゼンを外し、葱平の草つきを下った。大雪渓には残雪たっぷり、22年ほど前に二男と下って以来2回目に軽アイゼンによる雪渓下りである。山スキーでは、数回気持ちよく軽快に滑走したが、重荷と筋肉疲労の軽アイゼン下りはかなりきつくスリップしないよう最後まで気が抜けなかった。



・猿倉には15:15到着、10分前にバスは出てしまい暫くない。ラッキーにも単独の二人と同乗して八方バスセンターまで行け、ラッキーであった。20分ほど後に長野行のバスがある。やむなく温泉は割愛して、上半身の汗を拭き、ティーシャツを着替えて済ませた。バスの中で、一番搾りで1人乾杯、新幹線に乗り氷結と弁当、一眠りの後、9時半過ぎに自宅に到着した。